

アカイトリノムスメ

19,292票



「赤い鳥」の娘が母娘制覇を達成

父はディーブインパクト。母はハワイに生息する赤い鳥の現地名から名付けられたアパパネ。三冠馬と牝馬三冠馬の間に生まれた牝馬は、母の馬名からそのままアカイトリノムスメと名付けられ、やはり母と同じ美浦の国枝栄厩舎に預けられた。

2歳8月の新潟のデビュー戦を7着で終えたアカイトリノムスメは、10月の未勝利戦で初勝利を取めると、続く11月の赤松賞も差し切って連勝を飾った。どちらも東京芝1600mで、タイムは1分35秒9と1分34秒5。母アパパネも11年前、新馬戦で敗れた後、秋の東京で未勝利と赤松賞を連勝していたが、時期も、コースも、2戦の勝ちタイムさえもまったく同じという、奇跡のような一致ぶりだった。

明けて2021年、クイーンCで重賞初制覇を飾ったアカイトリノムスメは、白毛のソダシが話題を集めるクラシックへ。しかし桜花賞4着、オークス2着と、あと一歩で母娘制覇には届かず春を終えた。

迎えた最後の一冠、秋華賞は、京都競馬場が改修工事のため

創設26回目にして初の阪神競馬場での実施となった。レースを先導したのはローズSで2着に逃げ粘ったエイシンヒテンで、直後に断然人気のソダシ。アカイトリノムスメはそのソダシを見る好位の5、6番手を進み、3コーナー過ぎから進出を開始。直線でじわじわ伸びてソダシを交わし、エイシンヒテンを捉えると、内から馬群を割ったローズS勝ち馬アンドヴァラナウト、外から追い込んできた紫苑Sの覇者ファインルージュを抑えて先頭でゴール。ついにGI制覇を達成するとともに、アパパネとの秋華賞母娘制覇を成し遂げた。

その後、エリザベス女王杯で7着と敗れたアカイトリノムスメ。翌春、阪神牝馬Sで怪我により本馬場入場後に競走除外となり、これを最後に現役を引退。繁殖牝馬として、秋華賞の母娘3代制覇の夢を次代へと託すこととなった。

第26回秋華賞(GI)

2021年10月17日 阪神競馬場 2000m(芝・右) 晴・良 16頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	アカイトリノムスメ	牝3	55	戸崎 圭太	国枝 栄	2:01.2	④	⑥⑤⑤④
2	ファインルージュ	牝3	55	C.ルメール	岩戸 孝樹	1/2	②	⑪⑪⑩⑩
3	アンドヴァラナウト	牝3	55	福永 祐一	池添 学	1/2	③	④⑤⑤⑥
4	エイシンヒテン	牝3	55	松若 風馬	渡辺 薫彦	1 1/2	⑩	①①①①
5	スライリー	牝3	55	石川裕紀人	相沢 郁	クビ	⑮	⑨⑩⑩⑪

アカイトリノムスメ Akaitorino Musume 2018年4月16日生 牝 黒鹿毛

父:ディーブインパクト 母:アパパネ
母の父:キングカメハメハ
生産:安平・ノーザンファーム
馬主:金子真人ホールディングス株式会社
通算成績:8戦4勝

主な勝ち戦

2021年 秋華賞(GI)、デイリー杯クイーンC(GIII)



2021年デイリー杯クイーンC(GIII)

メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。
3位:アカイトリノムスメ(19,292票)

1^位 **アーモンドアイ** 36,163票



2018年の優勝馬にして同年の牝馬三冠馬。通算成績は15戦11勝で、うち10勝は2着馬を1馬身以上離しており、秋華賞も1馬身半差の勝利であった。

2^位 **ダイワスカーレット** 19,931票



2007年の優勝馬。道中は2番手を進み、4コーナーを待たずして先頭へ躍り出る。そのまま後続の追撃をかわして勝利を収めた。通算成績は12戦8勝・2着4回と生涯連対率100%。

4^位 **ファインモーション** 17,799票



2002年の優勝馬。アイルランド生まれの外国産馬で、デビューから無敗の連勝街道を突き進み5戦目の本競走でGI初制覇を果たした。単勝支持率はレース史上最高の72.0%。

5^位 **クロノジェネシス** 17,486票



2019年の優勝馬。春は桜花賞・オークスで連続3着と、あと一步栄冠に届かなかった本馬が2馬身差で掴んだ初のビッグタイトルであった。小倉デビュー馬が秋華賞を制したのは初のこと。



同一の競走馬が複数のレースで1位となった場合、その競走馬は最も多く票を獲得したレースの「メモリアルヒーロー」といたします。その他のレースにつきましては、2位以下となった競走馬から得票数の多い順に繰り上げとなります。(同一の競走馬が複数レースの「メモリアルヒーロー」となることはありません。)



特設サイト